

埼玉県内全域におけるイヌ・ネコに関する寄生虫保有状況（2019年）

動物指導センター ○ 内田 祐輔 安井 潤紀 坂本 晶代 河原 泰伸
川崎 貴子 篠宮 哲彦
衛生研究所 儀同 清香 近 真理奈* *現狭山保健所

1 はじめに

エキノコックス *Echinococcus multilocularis* をはじめとする動物由来感染症対策の観点から、県内（政令市、中核市は除く）におけるイヌおよびネコの寄生虫侵淫状況を調査したので、2019年の結果について報告する。

2 検査材料および方法

2019年1月から11月までの期間に当センターに収容されたイヌ31頭、ネコ16頭の直腸便を採取し、寄生虫検査を実施した。寄生虫検査は直接薄層塗抹法、ホルマリン・エーテル法（MGL法）、シヨ糖遠心浮遊法および新鮮便の直接塗抹法を併用した。なお、イヌについては所有者不明として捕獲されたものを「捕獲」、所有者が飼養放棄したものを「放棄」とした。ネコについては所有者不明として持ち込まれたものを「不明」、所有者が飼養放棄したものを「放棄」とした。

3 結果

(1) イヌについて

イヌ全体（31検体）のうち、寄生虫の陽性数は4頭、陽性率は12.9%であった。なお、陽性だった4検体のうち、「捕獲」由来が1検体、「放棄」由来が3検体であった。虫卵は、犬鞭虫卵が3検体（9.7%）、*Isoospora ohioensis*が1検体（3.2%）検出された（表1）。イヌにおける複数の寄生虫類に感染していた検体はなかった。

表1 イヌにおける糞便検査結果

		オス (n=18)	メス (n=13)	合計 (n=31)
原虫類	<i>Isoospora ohioensis</i>	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (3.2%)
条虫類		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
吸虫類		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
線虫類	犬鞭虫	0 (0.0%)	3 (23.1%)	3 (9.7%)
	陽性頭数	0 (0.0%)	4 (30.8%)	4 (12.9%)

(2) ネコについて

ネコ全体（16検体）のうち、寄生虫の陽性数は4検体、陽性率は25.0%であった。なお、陽性だった4検体は全て「放棄」由来であった。虫卵は、マンソン裂頭条虫卵が2検体（12.5%）、壺形吸虫卵が2検体（12.5%）、猫鉤虫卵が4検体（25.0%）検出された（表2）。

また、ネコにおいて複数の寄生虫類に重複感染した検体は2検体あり、いずれもその内訳は、マン

ソン裂頭条虫、壺形吸虫、猫鉤虫の3種重複感染であった。

表2 ネコにおける糞便検査結果

		オス (n=2)	メス (n=14)	合計 (n=16)
原虫類		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
条虫類	マンソン裂頭条虫	0 (0.0%)	2 (14.3%)	2 (12.5%)
吸虫類	壺形吸虫	0 (0.0%)	2 (14.3%)	2 (12.5%)
線虫類	猫鉤虫	1 (50.0%)	3 (21.4%)	4 (25.0%)
陽性頭数		1 (50.0%)	3 (21.4%)	4 (25.0%)

※重複感染があるため虫卵検出数と陽性頭数の合計数は一致しない

(3) 地域別にみた陽性率

捕獲または収容した住所地を地域別に分類し、県内各地域における寄生虫陽性率を比較した(表3)。地域別で検体数に差があるが、陽性率に有意な差は認められなかった($p < 0.05$)

表3 地域別にみたイヌ、ネコの寄生虫類の陽性率

地域	イヌ		ネコ	
	検査数	陽性数 (%)	検査数	陽性数 (%)
県北部	10	2 (20.0%)	10	3 (30.0%)
県南部	3	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)
県西部	9	1 (11.1%)	5	1 (20.0%)
県東部	9	1 (11.1%)	1	0 (0.0%)
合計	31	4 (12.9%)	16	4 (25.0%)

4 考察・まとめ

調査は、エキノкокスの本県への侵入に関する疫学調査の一環として実施している。エキノкокスは検出されていないが、様々な寄生虫類の感染が明らかとなり、ヒトに感染する動物由来感染症の原因となるものも確認された。例えば、犬鞭虫卵によるヒト腸管への寄生例やマンソン裂頭条虫のプレロセルコイド皮下寄生による腫瘍形成および内臓寄生例が報告されている。

また、2018年3月には、厚生労働省から、愛知県知多半島の一部地域において犬のエキノкокスが定着していると考えられる旨の情報提供があった。

現代社会では人や物の往来が多様化しており、今後、エキノкокスが本県で発生する可能性は十分考えられる。これらの感染予防にはペットの糞便を適正に処理することは勿論、手洗いの励行が重要である。動物に触れた場合や砂場・公園など動物が排泄しやすい場所で遊んだ後は、特に意識して手洗いを行う必要がある。

当センターでは寄生虫侵淫調査を継続し、ホームページ掲載やイヌ・ネコの譲渡講習会、動物愛護教室等で情報発信し、県民への動物由来感染症予防の普及、啓発に努めていきたい。